

新幹線プレス

2011年10月8日 No.15

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

矛盾だらけの定昇制度！ 本当に社員に報いる賃金制度か？！

2001年度協約協定改訂・団体交渉より

団体交渉でのやりとり

組合：定期昇給が逡減(徐々に減ること)していく。このまま行くと100円×4で、昇給が400円となる人が出てくる。

会社：そういうことになる。しかしB年限になれば昇格する。

組合：このような制度で本当にやる気が出るものか。

会社：努力をして上の等級を目指してもらおう。

組合：管理者になりたくない人もいる。今のポジションで良いという人も報われる制度にすべきだ。

会社：意欲のある方は、管理者のポジションに就いてもらいたい。

組合：上の等級になって仕事をすることだけではなく、現在のところで頑張っている。なのに昇給額が減るとするのは矛盾している。改善すべきである。

会社：会社の主張に変わりはない。

意欲ある社員＝管理者を目指す者なのか？

新幹線の運転士として職を続けたい、お客様と接する仕事である車掌職を続けたい、車両の管理や修繕する検査業務を続けたいなど、人それぞれ現職で従事することに誇りを持っています。しかし、昇格しなければ定期昇給が逡減していく現行制度では定期昇給は11年目からは100円×4で400円となります。

現場の第一線で働き、日夜安全・安定輸送に貢献している社員をどのように見ているのか！管理者を目指さなければ意欲ある社員とは認めないのか！会社の考え方は社員のモチベーションを著しく損ねるものといえます。

定期昇給の改善を求め、職場から声を出そう！

全社員の皆さん、現在の賃金制度はどんなに頑張っても昇格しなければ仲間同士の賃金格差を生む制度です。安定した昇給が確保されてこそ、現職の誇りとモチベーションが発揮されるものです。無用な競争心を煽る制度は会社にとって決してプラスにはなりません。

JR東海労新幹線地本は、これからも定期昇給の改善を求め、皆さんと共に職場から声を出し、闘いを進めていきます。